



ほり  
シイ

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

# スクールソーシャルワーカーだより 27

こと ほりかわしげとし

horikawassw@gmail.com

人の一生は 重き荷を負うて 遠き道を行くが如し

☆ ガラス窓 の巻 ☆

徳川家康

先日、BSプレミアムで解剖学者・養老孟子<sup>たけし</sup>さんの自宅にカメラが入っての番組を視聴しました。印象に残っているシーンについての感想です。

☆

先生の自宅は鎌倉にあり、昔ながらの木造家屋。縁側があり、ガラス戸越しに小さな庭が見えます。縁側で先生が何かしています。

見ると、家の中に入ったハチが何度も、窓にぶつっています。先生はそっと両手で囲み、何とか外に逃がすことが出来ました。

学校を訪れると、廊下に落ちて死んでいる虫を見ます。きっと、腹ペコで力尽きるまで、コツン、コツンとぶつかり続けたに違いありません。

もし、虫のそんな様子を見たら、「こっちに飛べば、逃げ出せるのに」「どうして分からないのかな…」と、思ってしまいます。

虫たちは本能が命じるまま、「光に向かって飛べ!」と、行動します。

このところお話しして来た『孤独の井戸』と重なって、印象に残ったのでした。

★

困難にぶつかり悩む人は、困難から逃げようとして、原因を探しあぐね、直面する以前に戻って考えようとしません。そして、唯一思いついたやり方にこだわって解決

しようと思ってしまう。まるでこのハチのようです。そして養老先生の手助けに、かえって逃げ惑うハチと同様、『孤独の井戸』を、深く、深く潜っていくのです。

降りて来るクモの糸にも気づかず…

☆☆

「学ぶ事を知る者は、赤ん坊からでも学ぶ」。当SSWが修行中に、師匠から教えられた言葉がよみがえります。

学校で、学習作業だけを身に付けたおとなは、勉強は学校で、黒板の前でするものと勘違いしている節があります。

学んだ事柄は、誰からも奪われる事はありません。しかし、詰め込んだ知識は、その場しのぎの方便に過ぎず、忘れ去ってしまうものです。

釈迦は、人の一生は困難、試練に出会うものである。生涯は正に、さまざまな課題＝業<sup>ごう</sup>を修めるためにあり、業<sup>ごう</sup>の克服こそが、『出世の本懐』なのだと教えています。

重要なのは、『乗り越えられない業<sup>ごう</sup>は無<sup>い</sup>』＝克服できない課題は無<sup>く</sup>、様々な縁を大切にしていって乗り越えて行け、という教えもあります。

